

ブレイン 求ム。

行政
志望の方

リサーチ・
コンサルティング
志望の方

広告・マス
コミュニケーション
志望の方

政治家
志望の方

特にそんな方は、地方政治のフィールドで
自分の経験値を上げてみませんか？

僕は、10年前ぐらいに、当時の「エコ就職ナビ」というチームで活動していた小林伸行といいます。つまり、元アシダーです(笑)。

その後、CSR関連のコンサルティングやリサーチの仕事を経て、「政治をやろう」と思い立ちました。そして、国会議員政策秘書の資格をとって議員秘書となり、現在は神奈川県横須賀市で市議会議員をしています。

いま、僕にはブレインが必要です。

やりたい政策がたくさんあります。財政、教育、福祉、労働、雇用、公共施設、行政改革、受益者負担……。なにしろ、手が回っていません。自分で言うのもなんですが、当選後の2年間、それなりに実績は残してきました。でも、もっと成果を出したい。それには、助けてくれる人が必要だと感じ始めました。

でも、アルバイト感覚では困る。実際のところ、細かく指示を出さなきゃいけないようじゃ物足りない。テーマを与えられたら、自分の頭で考えて資料収集や現状分析・他市比較などができる。そんな

自分で仕事を見つけてモノゴトを前に進められる方に来てほしい。だから、学歴はどうでもいいのですが、地アタマがいいことが望ましい。でも、ガッツでカバーできるならOKです。

僕自身は後者のタイプでした。「エコ就職ナビ」時代には、電力会社の環境報告書とにらめっこして、各社の電源構成を比べ、関西電力の原発比率が突出して高いことを突き止めたりしました。泥臭い作業でしたが、2003年当時はあまり知られてない事実を明らかにできた。例えば、こんな作業をできる人と仕事したい。

正直、高い能力を求める割に、それほどいい待遇ではないとは思いますが、でも、これから社会に出ようという方にとって、様々な場面で読み換えのきく経験ができることをお約束します。

アシードで活動しているような、意識の高い方の中には、ベクトルを合わせて一緒に政策づくりをして頂ける方がいるかもしれない。そう思って、このチラシを同封して頂きました。何か感じるところのあった方は、遠慮なくお問い合わせください。

横須賀市議会議員 小林のぶゆき事務所 調査研究スタッフ募集

条件

- 地アタマがいいか、ガッツがあること
- 集中力か、瞬発力があること
- 年齢・学歴・性別・国籍などは一切不問

待遇

- 1時間最低 1,000円。能力に応じ応相談
- 勤務は月に100時間以内。
曜日・時間帯含め応相談
- 勤務地は、週1回程度、横須賀市に来て
打ち合わせできれば、テレワークも応相談
- 2013年4月に勤務開始

具体的な業務

- 資料を集め、整理・分析する
- アンケート・ヒアリングをして一次資料をつくる
- 表やグラフを作成する
- 制度の概要を調べ、要点を小林に説明する
- レポートを書く
- 政策提案を書く

お問い合わせ先

小林のぶゆき <info@kobayashinobuyuki.com>
神奈川県横須賀市野比 2-13-18
TEL:070-6640-3927 FAX:046-801-2177
<http://kobayashinobuyuki.com/>

※あくまでも調査研究スタッフの募集であり、チラシ配布など政治活動を行うことは一切ありません。
※別途、早朝の駅頭活動など、随時の政治活動のアルバイトも募集しています。より好待遇です。
特に政治家に興味のある方はお問い合わせください。調査研究スタッフとの兼務も可能です。



「ハコモノだらけ」に一石

研究会発足であり方議論



「ホールや会議室など、市内には用途が重複する公共施設が多数ある。リストアップすべき」との持論を唱える横須賀市議の小林伸行議員の呼びかけで「横須賀ハコモノ研究会」が立ち上がった。将来を見据えた施設のあり方を考えるもので、今月3日に開かれた初会合には関心を示す約30人の市民が顔を揃えた。

小林議員は市内に点在する公共施設や建造物を「ハコモノ」と定義。高度成長時代はインフラ整備と公共需要の創出などで一定の役割を果たしたと前置きした上で、「人口減少社会が進んでいる横須賀は現在、ハコモノの供給過剰状態に陥っている」と指摘した。

中でも注目したのがホールや会議室などの「貸館」。独自で実施した調査では、年間の稼働率が90%を超過している追浜コミュニティセンター北館に対して、北下浦みん家の4・3%など、ひと桁台の施設が多数

公共施設の現状を説明する小林議員

あつたという。立地場所使い勝手、利用料の面などで人気・不人気が極端に分かれている。いずれも維持管理費が伴うため、「需要の少ない施設は、統廃合や転用といった対策を講じる必要がある」と小林議員。あわせて、少子化に伴う学校の余裕教室の活用や閉校後の校舎のあり方などの問題も同一線上で捉えるべき、との見解を示した。

小林議員は横須賀市の現状認識の甘さにも苦言を呈した。「施設更新に必要とされる経費やその後の維持管理費を明らかにする『施設白書』が存在しない。現状が把握できなければ、対策も練れない」

参加した市民の多くは小林議員の考えに同意を示す一方、「現状認識の勉強だけでは駄目。行政を本気で動かす方策を考えなければ無駄は減らない」とする厳しい意見も飛び出した。

同会では定期的に勉強会を開き、将来の公共施設のあり方を探っていくという。

↑地元紙(タウンニュース横須賀版)の

取材記事(2012年6月8日号)

毎日新聞社「毎日フォーラム」の取材記事→

(2013年1月号)



見えてくると、分らないから、変わらない。「議員はメディア」と情報発信に注力

小林伸行議員は、横須賀市議会議員として、市民と接する機会が多い。その中で、議員としての役割や、市民との接点について、日々考えている。特に、議員としての「見える仕事」をどうやって示していくか、という点に注力している。

地元紙(タウンニュース横須賀版)の

取材記事(2012年4月20日号)→

地元紙(タウンニュース横須賀版)での

研究会の開催告知(2012年11月9日号)↓



放射能測定 カフエで開始

市民による実態調査の一環で、市内各所で放射能測定が行われている。その一環として、市民が手軽に放射能測定ができる「カフエ」が導入された。



横須賀ハコモノ研究会 「マニフェスト大賞」で表彰

「市民の視点から公共施設あり方を考える」と、おなじみの元三重県知事北川正恭氏が、6月に発足した横須賀ハコモノ研究会、議員らを応援しようと創設した表彰制度で、全国1889件の応募の中から選ばれた。

横須賀ハコモノ研究会 検索

日時：12月9日(日)午前10時

＜プロフィール＞ 野比在住。1975年9月3日生。筑波大卒。地域情報誌と環境コンサルティングに携わるが、地域の盛衰と日本の将来を憂い、政治家を志す。国会議員政務秘書を経て、2011年4月より横須賀市議会議員。

市政の現場から 「不利益の分配」政治の役割

独自の政策提言で異端を、限られた財源をどう配分するか。市がはじき出した導入試算に運営経費4・5億円、初期費用で2・5億円という数字がある。これの捻出方法は、先の中央斎場議員活動の柱に掲げる「逗子市 鎌倉市では民「中学校給食導入論」はこれの延長線上にある考えだ。人口減少が加速度を増している。閉塞は打ち破れない。市営の横須賀市も有料サービス。横須賀市だけ無料です。状況にあつて、定住促進の道理がない。反発を承知して、子育て環境の利を売り出すのなら、中学校給食はあつてはならない。議員としての役割は、市民の声を代弁することだ。この政治(議員)としての役割は、市民の声を代弁することだ。この政治(議員)としての役割は、市民の声を代弁することだ。

小林 伸行議員 (無所属・36歳) 野比在住/1期目

↑地元紙(タウンニュース横須賀版)の取材記事(2012年7月13日号)